

平成29年度第2回渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

平成29年10月18日（水）午後3時開会 午後4時5分閉会

II 開催場所

渋川市役所第二庁舎202会議室

III 出席者

【構成員】高木勉市長、池田由美子教育委員長、高橋秀和教育委員長職務代理者、新井光久教育委員、高橋秀樹教育委員、後藤晃教育長

【市長部局】愛敬総務部長、加藤企画部長、諸田保健福祉部長、後藤スポーツ課長、石田社会福祉課長、橋爪こども課長、儘田企画課長、事務局職員2名

【教育委員会】石北教育部長、藤岡教育総務課長、名塚学校教育課長、綿貫学校給食課長、萩原生涯学習課長、小林文化財保護課長、担当職員2名

【傍聴者】 5名

IV 会議の概要

1 開会

企画課長	皆様こんにちは。本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 定刻になりましたので、ただいまから平成29年度第2回渋川市総合教育会議を開会いたします。会議の進行を務めさせていただきます企画課長の儘田と申します。 よろしく願いいたします。 開会にあたりまして、高木市長からごあいさつを申し上げます。
------	---

2 市長あいさつ

高木市長	皆様こんにちは。渋川市長の高木勉でございます。 市長と言っても、1か月とちょっとで、まだ、日が浅い訳ですけれども渋川のために一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 教育委員の皆様におかれましては、大変いつもお世話になっております。また、忙しい中を総合教育会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。 本日の議題でございますが、一つ目は、平成27年度に策定した渋川市教育振興大綱が、今年度に期間の終了を迎えますので、第2期渋川市教育振興大綱の策定に向けて方針案を作成いたしましたので、ご協議をお願いするものでございます。 二つ目は、全国的な課題であります貧困家庭対策の取組について、市長部局、教育委員会、それぞれの取組状況に関する報告を踏まえて、今後の取組等について、ご協議をお願いするものでございます。
------	---

高木市長	<p>本日は、私の就任後、初めての総合教育会議となっております。</p> <p>この会議の中で、教育委員会の皆さんと、本市の教育関連の課題や取組などについて十分議論し、連携強化を図って参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
企画課長	<p>続きまして、教育委員会池田教育委員長から、ごあいさつをお願いいたします。</p>

3 教育委員長あいさつ

池田教育委員長	<p>先ほどの高木市長さんのごあいさつと重複する部分もありますが、よろしくお願いいたします。改めまして皆様こんにちは。教育委員長を務めております池田由美子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、渋川市総合教育会議の平成29年度第2回の会議と言うことで教育委員会を代表いたしまして、ごあいさつを申し上げます。</p> <p>この総合教育会議は、5月29日に第1回の会議が開催されましたが、今回は新しく市長に就任されました高木勉市長さんとの初めての会議となります。高木市長さんどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>第1回の会議では、平成29年度の教育全般に関する取り組み、しぶかわスポーツクラブの設立、渋川市青少年センターの活動などについて熱心にご協議をいただいたところです。</p> <p>今回の会議におきましては、第2期渋川市教育振興大綱策定方針(案)について及び貧困家庭対策の取組についての2つが議題とされております。</p> <p>一つ目の第2期渋川市教育振興大綱策定方針(案)につきましては、平成27年12月に策定した現在の大綱が今年度で最終年度になることから、第2期大綱策定の基本方針や策定スケジュールについて協議するものです。また、二つ目の貧困家庭対策の取組については、家庭の経済的な貧困により将来を担う子どもたちが夢や希望を実現できないという問題が全国的な問題としてクローズアップされていることから、渋川市におきましても早急な対策が必要と考えるものです。さらに今回は議題となっておりますが、渋川市の子どもたちの誰もが安心して学び、活躍できる教育環境の整備なども総合教育会議で協議し、市長部局と教育委員会が連携、協力し取り組んで行けたらと思っております。</p> <p>こうした課題は、渋川市の行政全体で取り組む課題であり、更に市民全体、地域全体が関心をもち行政と市民が協力して取り組まなければならないことと考えております。</p> <p>こうしたことから、この総合教育会議において、高木市長さんの教育への思いや願いを伺うとともに、教育に関わる諸課題について私たち教育委員と市長さんとが共通理解を図ることが、大変意義あることと考えております。</p> <p>これからの渋川市の教育行政の更なる充実、発展のために、この総合教育会議が意義あるものとなるよう祈念して、教育委員会を代表してのあいさつとさせていただきます。</p> <p>本日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
企画課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、次第にはございませんが、市長就任後初めての会議となりますので</p>

	<p>で、先ほどごあいさつをいただきました池田委員長以外の委員の皆さま方に、自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>マイクをお使いいただき、名簿の番号順に自己紹介をお願いいたします。</p> <p>【委員自己紹介】</p>
企画課長	<p>ありがとうございました。</p>

4 議 題

(1) 第2期渋川市教育振興大綱策定方針(案)について

企画課長	<p>それでは、議題に入らせていただきます。</p> <p>渋川市総合教育会議設置要綱の規定によりまして、この後の進行につきましては高木市長をお願いいたします。</p>
高木市長	<p>それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。議題(1)「第2期渋川市教育振興大綱策定方針(案)について」事務局から説明をお願いします。</p> <p>●【企画部長説明】 【資料No.1】</p>
高木市長	<p>事務局の説明が終わりました。</p> <p>これについて、ご質問やご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。</p>
池田教育委員長	<p>先ほど事務局より、教育振興大綱の策定について説明されました。基本方針としての4つの観点が出されましたが、社会情勢の変化とか、教育状況の動向を踏まえながら国の定めるところの基本的な方針の8つの成果目標を参酌するとともに、渋川市における第2次渋川市総合計画との整合性を図ること。そして、現大綱の連続性、継続性も確保していく方針については、全く同感であります。そして、スケジュールのとおり、第2期大綱の策定については、この総合教育会議において、私ども教育委員も十分協議していきたいと思っております。</p> <p>その上で、高木市長さんになられての初めての大綱の策定でありますので、高木市長さんの教育全般についての思い、あるいはビジョン等をお伺いできればと思っております。</p>
高木市長	<p>大綱を皆さんと一緒に作っていくことについて、これからいろいろとご意見を伺わせていただきたいと思います。私は、教育の専門家ではありませんので、素人の発言になるかもしれませんが、その辺をお含みの上、お聞き取りいただければと思います。</p> <p>渋川市は人口減少という大きな課題に直面しております。人口が減少しているということは、子どもの数も減ってきているところであります。児童、生徒が減って、そして、学校の統廃合もしなければならないという状況が渋川市には課題としてあります。私も学校の統廃合関係の委員をして、小野上中学校と子持中学校の統合に関わったこともございます。渋川市が抱えている児童、生徒の減、人口の減に対応した形で子どもたちの教育環</p>

境をしっかりと整えていくことが、まず一つ大事だと思います。それから、渋川市の子どもたちがしっかりと学ぶ環境のもとで、学習の力を付けることをしていかなければいけないと思っています。そのためには、先生にも頑張ってもらわないといけませんし、教育資機材も充実していかなければならないと思います。そういったことを含めて渋川市は教育都市である、教育に非常に熱心なまちだと、教育日本一の都市をつかっていきたいと思っています。そのことが、渋川の人口減少対策に寄与する、渋川の人口減少の危機を突破していく一つの大きな力になると思っています。そういった観点から、この総合教育会議の皆さんと協議しながら、いろいろな施策を進めていきたいと思っています。

新井委員

市長の考えをお伺いできましたことは非常にうれしく思います。PTAの立場から、子どもたちの教育行政、教育環境を確実に、着実に、そして丁寧に、我々も渋川市の一員として教育環境を進めていけたらと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

高橋委員

今、市長が言われましたように、渋川の人口減対策ということで、その一つの大きな柱が教育の充実なんだよというお話を伺って、大変心強く思っております。我々、教育委員会としましても大綱(案)を時間をかけて作ったわけでありまして、人口減対策も長期的なビジョンでやらないといけないと思いますが、教育も昨日今日、こういう施策をしたからすぐに子どもが成長したということではなく、やはり長い時間がかかる問題だと思います。より継続性や連続性を持ちながら実施していくことが大切だということをお願いしたいと思っています。是非、長い目でこの大綱を進めていただければと思います。

高木市長

私も同感です。教育というのはすぐ効果が出たり、成果が出たり、目に見えないというのが良いところでもあるし、また、難しいところだと思います。10年、20年、30年、将来のことを見据えて、子どもたちにどういう教育をしていったら良いのか、どういった内容で進めて行ったら良いのかが大事だと思いますので、教育に携わる学校の先生方が中心になりますけれども、それだけではなくて、地域の人たちも一緒になって子どもたちの将来のことを考えながら、どういう教育をしていくのかを考えていければと思っています。

池田教育委員長

先ほど高木市長さんに教育に向ける思いや願い等をお聞きしたわけですが、渋川市を教育都市にしていきたいと力強いご発言をいただきまして、全く私も同感で、これは一つのキャッチフレーズとして、目標として位置づけられるのかなと思います。素晴らしい教育都市になるように私たちも頑張っていきたいと思っています。

後藤教育長

平成27年度から法改正によりまして総合教育会議が始まりましたけれども、従来、教育委員会は市長から独立した教育機関という考え方で、あまりこういった協議はなかったと思っています。市長は市民の代表者でありますので、むしろ教育について、市民が最も関心の高い分野の一つである教育問題について、当然関わって来るべきだと思っています。今回

のこの総合教育会議によりまして、そういう関わりができたという認識でおりますし、教育委員会内部においても、教育委員同士の教育に対する議論の活性化につながったと思っております。さまざまな課題が総合教育会議で議論されるに当たりまして、教育委員同士も議論しながら、また、独自に学習しながら臨んでおり、良い方向性になっていると思っておりますし、今後も議論の活性化を進めて、この総合教育会議に臨んでいければと思っております。

高橋委員長
職務代理

資料の1ページの中にありますが、基本方針の中で第2次渋川市総合計画という言葉が出ています。今作っているところだと思っておりますが、こちらの方も今行っている教育の施策が大きく変わりすぎても混乱すると思しますので、是非、連続性、継続性、そして実効性のあるものにしていただいで、大綱とつなげていただければありがたいと思っております。

高木市長

私は、地域活動をずっとやってきましたので、教育というのは地域と密接に結びついているし、結びつけなければいけないと思っております。小野上共育というのがあったと思っております。小さなところですので、お子さんも少ないし、人口も少ないですけれども、一緒になって子どもたちを育てようという意味で、教育のきょうが教えるでなくて、共に育てると書いて、小野上共育ということで子どもたちの教育を熱心に取り組んでいる地域として注目していました。是非、保護者だけではなくて、地域みんなで、そして学校と一緒に子どもを育てる教育をしていく。共に育てる意味での渋川共育ができていけば良いのではないかと思います。子どもが減っていますので、学校環境を整えていくことで非常に難しい面もあります。義務教育学校制度ができて、小中一貫校で取り組んでいる地域もあります。いろいろ形があると思っておりますけれども、そこには地域の人たちが一緒になって子どもを、学校を盛り立てることが大事で、必要だと思っておりますので、その方針でこれから進めていきたいと思っております。

それと、廃校になった校舎を活用していかなければならないと思っております。南雲小学校とか刀川小学校などありますが、南雲小学校は廃校になった後も地域の人たちが学校に集まって子どもたちといろいろな行事をしています。それも教育の一つだと思います。義務教育学校としては無くなったけれども、場としてはあるわけですから、そういったものをこれからも教育とかいろいろな面で活用していけるようなことも考えていきたいと思っております。

後藤教育長

市長から地域活動と教育を結びつけるという発言がございました。私は教育委員会に入りましてから、生涯学習と学校教育の2部門の関係性をずっと何が本質なのか考えてきました。地域の子どものいろいろな事情で孤立してしまう事案がある中で、地域全体でそういったことが無いように子どもを見守るという意味での地域との関わり、それから学校教育は、何より基礎的な学力などを育成する場であると思っておりますけれども、行きつく先は、生涯学習、地域活動というところに行きつくのではないかと思います。そのために、必要な知識や能力を学校で確立していく、そういう地域との連続性については、何となくイメージができるようになってきたと思っております。生涯学習の重要性を学校教育とつなげてこれからも進めて

池田教育 委員長	<p>いきたいという思いがあります。</p> <p>パブリックコメント中の渋川市総合計画の教育・文化の部分を見させていただきました。教育・文化において基本理念を書いた取組方針ということで、育む・結ぶ・創るということをリンクさせながら教育を考えているのだと思いました。教育について地域文化を取り囲んだり、各世代の地域の人たちのサポート、そういったものを取り囲んでの教育・文化を進めていくといった方針を見させていただいて、新たな教育に対する方向性が示されていると思いました。まさに先ほど高木市長さんがおっしゃったように、地域力というものを進めていかなければならない。子どもの教育も大切だけれども、地域力も高めていくうえで、子どもたちが育つようにということですけども、3つの輪がリンクしながら教育を考えていくことも地域力をアップさせる大きな要因かなと思いますので、これからもそんな形で教育のあり方を考えられたらと思います。</p>
高木市長	<p>全く私も同感で、地域の力をつけていくことが大事だと思っています。渋川にはいろいろな遺跡が出ています。世界でも注目されるような金井の遺跡群、そして、中筋の遺跡、黒井峯もありますし、群馬県も東国文化ということで取り上げていますが、それが渋川にあるわけですから、渋川にはこんなにすばらしい昔からの遺跡、文化があったということ子どもたちに大人が教えなければならないし、子どもたちが自分の住んでいるところに誇りを持つということが大事だと思います。渋川にはもともと渋川郷学というのがあって、堀口藍園とか、寺子屋方式で教育をしました。そういう伝統があるところですから、渋川は教育に地域が熱心だったということが歴史的にもありますので、これからも地域に根付いた、地域の皆さんと一緒に日本一の教育都市渋川をつくれればと思います。</p>
高木市長	<p>ほかに何かございますか。よろしいでしょうか。 よろしければ、次の議題に移らせていただきます。</p>
(2) 貧困家庭対策の取組について	
高木市長	<p>議題(2)「貧困家庭対策の取組について」に入ります。事務局から、説明をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【保健福祉部長説明】 【資料No.2】 ●【教育部長説明】 【資料No.3】
高木市長	<p>事務局の説明が終わりました。 これについて、ご質問やご意見がございましたらお伺いしたいと思います。</p>
高橋委員長 職務代理	<p>渋川市においては、必要とし希望される方々にさまざまな支援がなされている。それでたくさんの方が助かっていることが分かりました。私は、学校現場にいましたが、学校の関係は多少経験があるので分かるのですが、</p>

福祉関係で平成27年度、28年度の実施状況、支給状況はそんなに違わない。増えているわけでもなく、減っているわけでもなく項目によって違いますが、支援を必要とする人、希望するすべての家庭が恩恵を受けていればよいのですが、もしかしたらこの事業を知らない方がいるのではという気がしました。私自身もこの機会がなければ、これらの事業について、詳細が分からなかったため、教えていただきたいことがあります。一つ目は、どんな方法でこれらの施策を市民に広報、啓発を行っているのか。二つ目は、さらに多くの人に知らせて利用してもらうために、どんな取組を考えているのか。教えていただければと思います。

諸田保健福祉部長

各種事業の周知につきましては、市の広報紙やホームページを使ってお知らせしているところです。さらに地区に民生委員・児童委員さんという方がおられて、子育て相談や心配事等を相談していく中で、紹介できるものは、紹介をさせていただいております。さらに今年度4月から渋川総合病院の跡地に子育て総合支援センターを開設させていただきました。その中で子育て等の相談支援を行っております。また同時にハローワークとも連携しまして就業等の相談にも取り組んでおります。そういった機会を捉えまして、事業について周知をさせていただいております。また、直接該当となる方が分かるという事業もございますので、そういった方には直接お知らせをするようにして、できる限り漏れの無いように周知させていただいているところです。今後、事業実施のお知らせをしていく中で、各種学校等に通っている方もおりますので、通い先でのPRなどができるか検討していきたいと思っております。

高橋委員長
職務代理

是非、必要とする人に行き渡るように応援をお願いしたいと思います。

後藤教育長

教育委員会の貧困家庭対策の取組について、教育部長から説明がありましたけれども、1ページの2の(1)教育の支援の②学力の保障や生活習慣の確立という説明がありますけれども、特に近年様々な統計資料が公表されておられて、学力と家庭の経済的な状況との関連性が指摘されております。統計上そういった数値が出ている訳でありますけれども、それが今般の子どもさんの能力に一致しているかということ、必ずしもそうではないと思っております。どこに違いがあるかということ、学習環境に影響されている面があるのではないかと思っております。教育委員会のスタンスとしますと、教育基本法にあります教育の機会均等を実現するために、まずは学力保障を考えていかなければならないと思っております。この学力保障の意味につきましては、等しく教育指導を受けるということではなくて、全ての子どもさんが等しく理解できるというところに目標をおいて、教職員も努力をしているところです。個々で学習が遅れがちなる子どもさんのサポート、それから学級の運営を円滑に進めること、心の安定ということも重要ではないかと思っております。生活習慣の確立というのがありますけれども、極力、家庭のご協力をいただきながら家庭学習の支援ができるような形、学校でのサポートができるような形、そういったものを総合的に講じまして学力保障につなげていきたいと思っております。

池田教育
委員長

先ほどの教育長さんのお話を受けましての意見です。今年度も10月13日から学校訪問、幼稚園訪問を行っています。昨年度まで3年間かけて市内全部の幼稚園、小・中学校を回ってきました。3年間の反省から、今年度からは、学校を訪問した際に、子どもたちの授業、あるいは先生方の授業の仕方、そして、校内の整備状況も観察できるようにしております。現在、渋川幼稚園と津久田小学校、渋川南小学校、赤城北中学校、子持中学校の1園2小2中の5つを回ってきました。いずれの学校におきましても、教育委員会の取組の中にも書いてありましたように、マイタウンティーチャーやあじさいプランティーチャーが配置されており、子どもたちが分かる授業を目指して行っていることを痛感しました。子どもたちも非常に元気で、まじめに取り組んでいると思えました。赤城北中学校では、授業が終わってしまって、授業そのものは見られなかったけれども、放課後の合唱コンクールの様子を、是非見てくださいと校長先生に言われまして、全学年を見させていただきました。非常に大きな声で、はつらつと歌っていました。問題のある学校などは、大きな声が出ないという傾向があります。大きな声で歌える姿勢は、学校の中できちんとした生徒指導、生活指導ができていると思えます。その後、校長先生からお話をお伺いすると、本当に先生方は、授業を大事にして、その授業を充実させていくために校内研修をしっかりとやって授業を進めているとのことでありました。先ほど教育長さんからお話がありましたように、先生方は授業だけではなくて、基礎、基本の定着のために家庭学習の習慣化をいろいろ工夫したり、授業が終わった後の放課後の補充学習も子どもの様子を個別に見ながら進めたりしているそうです。先生同士も熱心で、ベテランの先生が若い先生に授業の仕方や教材研究の仕方等を教えていることをお伺いして、まずは学習がしっかり成立すること、そして、学力がしっかり定着することが教育の均等性、公平性を考えた時に、貧困家庭対策にもつながっている、学力を保障することにつながっていると思えました。学力だけでなく、生活のルールもしっかり子どもたちに定着させようと工夫されています。渋川南小学校では50の約束と言っていました。そういった面からきちんと生活を安定させることも貧困家庭対策の一端を担っていると思えました。もう一つ、心の安定と教育長さんがおっしゃっていたのですが、私も学校現場から離れた後、渋川市の教育相談を少しお手伝いさせていただきました。先生方の教育相談の技術力というのも渋川市は大変力を入れていると思えます。やはりカウンセリングマインドで子どもたちに対応することは、貧困の家庭から心の不安だとか悩みだとか、それに対しての問題だとかを解決したり、緩和してあげるのも教育相談の技術力が大きく影響するのかなと思えます。また、その子だけでなく学級づくりにおいて、その子を取り巻く友達の関わり方もカウンセリングの力で大きく変わると思えますので、まさに教職員の資質、能力の向上に力を入れていくことが、貧困対策の子どもたちの大きな力になるし、支援になると思っています。

高橋委員長
職務代理

今、教育委員会と保健福祉部からそれぞれ(1)の議題の大綱に則した具体的な施策ということで、取組が報告された訳ですけれども、私の総論的なお願いとしては、こうした取組、施策は引き続き強力に高木市長に進めていただきたいと思います。教育委員会としますと市内に住む子どもたちの教育を受ける機会ですとか、内容ですとか、あるいは市長が心配

されております教育の資機材、設備的なもので著しい不公平があってはならないということで、均等性、公平性を追求していくことが教育委員会の使命だと思っております。今、国政でも大きな争点になっている教育問題、経済的な格差がそのまま子どもたちの教育の格差につながっていった。学力も普通の一般家庭よりは、貧困と言われる家庭の方がどうしても学力が身に付かないと言うことで大きな問題になっています。そういった格差、経済的な格差と教育的な格差をそのまま放置していくことはできないということで保健福祉部でも一生懸命対策を取られているのだと思います。先ほど委員長が言われましたように、貧困対策になっている施策を教育委員会でも一生懸命やりながら、相乗効果を生みながら子どもたちを育成する大きな力になっていければと思っておりますので、教育委員会と保健福祉部と協力しながら、相乗効果を狙いながら進めていただければと思っております。

高木市長

いろいろなご意見をいただきまして、私も教育の貧困対策というのは非常に大事なことだと思います。社会政策の中の一番大切なことだと思います。幼児教育、高等教育の無償化を今回の衆議院選挙でも各党でも公約にしていると思いますけれども、そういったことで貧困対策が充実していけば良いと思っております。アメリカの実証研究でも、幼児教育を受けなかった方が、成長してから生活保護率が高いという実証データあるようです。やはり教育の機会均等をしっかりと進めて行くことが大事だと思います。これは国家的なことだと思いますから、国でしっかりと社会政策を実行していただきたいと思っておりますし、いただけたらと思っております。私たちの市町村になってきますと、よりきめ細かく施策が行き届くように、そして、国の政策の谷間にあるようなところに手を差し伸べるということが大事だと思います。渋川市もできるだけきめ細かなところに目配りをして教育の機会均等、貧困対策につながるような政策をやっていければと思っております。

ほかに何かありますか。よろしいでしょうか。

それでは予定した議事については滞りなく終了いたしましたので、これをもって終わりにしたいと思います。

5 閉 会

企画課長

以上をもちまして、平成29年度第2回渋川市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

長時間にわたり、熱心にご審議いただきありがとうございました。